小学校六年の部　佳作　――――　対象作品／マイク・トムソン著『戦場の秘密図書館～シリアに残された希望～』文溪堂

希望の力

弘前大学教育学部附属小学校　花田　慎之助

ぼくがこの本を読んだきっかけは、『戦場の秘密図書館～シリアに残された希望～』という題名がとても気になったからです。戦争の中でどのような希望があるのかとても知りたくなりました。

国の大統領が、なぜ自国の民に残ぎゃくな行為をしたのか。どうして同じ人間を殺してしまうのか。他に何か方法がなかったのだろうかと残念でなりません。

もしぼくがこの地にいたら、秘密図書館には行かなかったと思います。危険な目に遭うかもしれないので、こわくて行動できないと思います。しかし危険をかえりみず、秘密図書館に行く人々はいました。電気、水道の供給もたたれ、食べ物等が不足する中でも人々は未来への希望を求めていたのです。戦争で大切な人と別れてしまった人達の安らぎの場所であっただろうと思います。

今、ぼくは平和になった日本に住んでいます。ごはんも食べられるし、学校にも行けるし読書もできます。しかし、ぼくたちの日常があたりまえのことではないのだとあらためて気づかされました。

最近おそろしい動画を見ました。ミサイルによってぎせいになった町や人々。子供たちもその中にいました。同じ世界のできごとなのに、あまりにしょうげきてきでした。戦争は本当におそろしいです。そのような状きょう下でも図書館をつくった人々は、どのような気持ちでいたのだろうか。ぼくはこの図書館をつくった人たちの信念の強さを感じました。平和への希望があったからできたと思います。希望を持ち続けたからこそ立派な秘密図書館をつくれたし、希望への力は絶大なものだと思います。今もなお、世界では戦いがおきています。一日でも早く平和がおとずれるように心から願います。